

1 次の文章を読み、問いに答えなさい

前10世紀に繁栄したヘブライ人の王国は、ソロモン王の死後、北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂した。イスラエル王国は前8世紀に A により滅ぼされ、他方のユダ王国は前6世紀に新バビロニアの王 B により滅ぼされて、住民の一部はバビロンに強制移住させられた。その後、アケメネス朝ペルシアがメソポタミアからエジプトまでを征服すると、ユダ王国の人々はイェルサレムへの帰還を許された。こうした経験によって、ユダの民、すなわちユダヤ人⁽¹⁾はユダヤ教を確立させていった。

前4世紀にアケメネス朝ペルシアがマケドニアのアレクサンドロス大王に滅ぼされた後、ユダヤ人は彼の武将が建国した C ⁽²⁾の支配下におかれた。ヘレニズム化を推進し、ユダヤ教を迫害する C に対し、ユダヤ人は前2世紀半ばに反乱をおこし、ふたたび独立王国を建設した。しかし、前1世紀前半にローマ軍が C を滅ぼし、イェルサレムを征服して、ユダヤ人の王国を支配下においた。前1世紀後半にローマはヘロデをユダヤ人の王にすえたが、ヘロデの死後に直接支配を強めると、ユダヤ人は後1世紀後半と2世紀前半の2度にわたってローマに対し反乱をおこした。これらの反乱はいずれも鎮圧され、ユダヤ人は五賢帝⁽³⁾のひとりのハドリアヌス帝によりイェルサレムを追われて離散状態となった。

その後、ローマ帝国でキリスト教が普及⁽⁴⁾し、さらに7世紀にイスラームがおこると、ヨーロッパ、北アフリカ、西アジアはキリスト教圏とイスラーム圏⁽⁵⁾に二分されることとなった。イスラーム圏の国家では、ムスリムの支配に服し一定の税を納めれば宗教の自由が認められたため、多くのユダヤ人がイスラーム圏に逃れた。他方、現在のフランスやイギリス、ドイツなどに移住していったユダヤ人も少数ながらいた。西ヨーロッパでは、732年の D でカール＝マルテルがイスラーム勢力をやぶるとローマ教会はフランク王国に接近し、さらに「ピピン⁽⁶⁾の寄進」をつうじて両者は結びつきを強めた。こうしてキリスト教が政治権力と提携すると、ユダヤ人をめぐる状況は悪化していった。

問 1 空欄

A

 ~

D

 に適切な語句を記入しなさい。

問 2 下線部(1)について、こうして確立された古代のユダヤ人の信仰の特徴を説明しなさい。

問 3 下線部(2)について、彼の父王のもとでのマケドニアの勢力拡大を、その父王の名前をあげつつ説明しなさい。

問 4 下線部(3)について、(ア)五賢帝の最後のマルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝が著したストア派の哲学書の書名を答えなさい。また、2世紀半ばにはこの皇帝の使者とされる者が現在のベトナム中部に到着したが、(イ)当時、その地を支配していた中国の王朝と、(ウ)同地に設置されていた郡の名を答えなさい。

問 5 下線部(4)について、下の史料は、4世紀前半にキリスト教徒の修辞学者が皇帝の勅令を引用したものである。この史料は、どの皇帝が、何を定めたことを示すものであるか、説明しなさい。

(前略)それゆえ我らは健全にして最も正しき考慮により、以下の方針が採られるべきと考えた。すなわち、キリスト者の礼典にせよ、自らが自分に最も適していると思う宗教にせよ、それに自らの心を捧げる権能は、何人に対しても決して否定さるべきではないと考えた。それは、我らが自由な心からその礼拝に従っているところの最高神格が、我らに対して万事において、その常なる恩恵と好意とを与え得んがためである。(後略)

(ラクタンティウス『迫害者の末路』、後藤篤子訳)

問 6 下線部(5)について、(ア)7世紀半ばの正統カリフによる征服活動と征服地の支配体制を説明しなさい。また、律法を遵守し、ラビ(律法学者)を指導者とするユダヤ人の共同体とイスラームの共同体との間には類似性があるが、(イ)『クルアーン(コーラン)』やムハンマドの言行などを典拠とするイスラーム法と、(ウ)そのイスラーム法に精通した学者・知識人を、それぞれアラビア語で何というか、カタカナで答えなさい。

問 7 下線部(6)について、「ピピンの寄進」とはフランク王国のピピンが、(ア)どの国と戦い、(イ)どの地方を奪ってローマ教皇に寄進した出来事であったか、答えなさい。

2

次の文章を読み、問いに答えなさい。

オスマン朝は13世紀末にアナトリア(小アジア)の西北で勃興し、アナトリアと 半島を中心に、ヨーロッパ・中東・アフリカにまたがる大帝国へと拡大した。

オスマン朝が地中海進出の足掛かりを得たのは、1453年にビザンツ帝国の首都であった を征服したことによる。当時のオスマン朝君主が「二つの海のスルタン」と自称したように、 は黒海と地中海の結節点に位置しており、このためオスマン朝は二つの海をつなぐ海上交通の支配が可能になった。

次いで、 の治世下の1517年にマムルーク朝を滅ぼすと、オスマン朝の支配領域は東地中海方面に大きく拡大する。それまでマムルーク朝の領土であったエジプトやシリアが新たにオスマン領に編入された。エジプトやシリアは東西交易ルート上に位置する重要な地域であり続け、オスマン朝下においても同様であった。また、スレイマン1世は帝国の東西で勢力圏の拡大をおこなった。

1571年に でオスマン朝はスペインやヴェネツィアなどの連合国軍に敗北するも、1574年に北アフリカの一部をスペインから奪い、しばらくの小康期間を経て1669年には地中海航路の要衝であったクレタ島を征服した。これをもってオスマン朝は最大版図を実現した。

問1 文中の空欄 ～ に適切な語句を記入しなさい。

問2 下線部(1)について、(ア)フェニキア人の貿易の拠点である地中海東岸の都市を一つ選んで答えなさい。また(イ)古代地中海世界においてフェニキア人が果たした文化的役割を説明しなさい。

- 問 3 下線部(2)について、(ア)この首都を征服したオスマン朝君主の名前を答えなさい。また(イ)征服後にオスマン朝が、この首都にあったビザンツ帝国期の宗教建造物に対しておこなった事業を、その建造物の名称に言及しつつ説明しなさい。
- 問 4 下線部(3)について、19世紀の前半から中頃にかけて地中海と黒海を結ぶ海峡をめぐって生じたヨーロッパ列強間の対立を、海峡の名称に言及しつつ説明しなさい。
- 問 5 下線部(4)について、この出来事によってオスマン朝が宗教上、どのような役割を継承し、いかなる地位を主張するようになったのか、説明しなさい。
- 問 6 下線部(5)について、16世紀から17世紀のオスマン朝領内では、イラン高原からヨーロッパを結ぶ東西交易がおこなわれていた。その交易について、商品や担い手、経由地に言及しつつ説明しなさい。
- 問 7 下線部(6)について、オスマン朝による東方での勢力圏拡大政策を、陸と海の両面に着目して説明しなさい。
- 問 8 下線部(7)について、(ア)古代のクレタ島では海洋文明が栄えたが、その中心地である宮殿の名称、また(イ)その宮殿の遺跡を発見したイギリス人の名前を答えなさい。

3 次の文章を読み、問いに答えなさい。

感染症の流行と拡大は、人類の歴史の転換期において決定的な役割を果たしてきた。

ペストは早い時期からユーラシア大陸全域で流行を繰り返していた。14世紀のペストは「 A 」と呼ばれ、東西交易路を通じて中東へと広がり、その後ヨーロッパで流行して人口の3分の1が死亡したとされる。それはまた中世ヨーロッパの封建社会にも大きな影響を及ぼし、 (1) を動揺させていった。またユダヤ人がカトリック教徒の井戸に毒物を投入したことが疫病の原因であるとの流言が広められ、ヨーロッパ各地の都市では (2) ユダヤ人の虐殺が発生した。

大西洋世界では、15世紀末からヨーロッパとアメリカのあいだで「 (3) コロンブス交換」と呼ばれるヒトやモノの移動が生じ、感染症も海を越えて拡大した。アステカ王国の滅亡や「 B 」の侵略によるインカ帝国の滅亡など「 (4) コンキスタドール(征服者)」による (5) 征服活動は、スペイン人がもたらした天然痘などの感染症がアメリカ先住民の人口を激減させた結果であり、天然痘がアメリカ大陸の植民地化の最も重要な要因となつたとされている。

19世紀には、世界人口の増加とともに都市化が進展し、技術革新による交通手段の発達に支えられ貿易や移民も増大した。これによって感染症の伝播も加速し、感染のリスクも増大した。コレラはもともとインドのベンガル地方の風土病であったが、1817年に世界規模での感染爆発を起こした。とくに産業革命期のイギリスでは、首都ロンドンや綿紡績で発展した「 C 」などの都市において (5) 労働者階級が劣悪な環境のもとで生活しており、コレラが蔓延して多数の死者が発生する事態となつた。

20世紀になると、第一次世界大戦の末期に「 D 」と呼ばれるインフルエンザが大流行した。このインフルエンザは、1918年3月にアメリカ国内で最初に流行し、大西洋を越えて (6) 米軍の兵士や物資が大量に動員されたことよつて、ヨーロッパ戦線のフランスにもたらされ、感染の被害が拡大した。1918年11月に停戦の協定が結ばれると、今度は復員する兵士によって世界に拡大した。被害が最も深刻だったのはインドであり、飢饉で栄養状態が悪化していたことよつて病気への抵抗力が弱まっており、1850万人が亡くなつたとされている。

- 問 1 文中の空欄

A

 ~

D

 に適切な語句を記入しなさい。
- 問 2 下線部(1)について、(ア)ペストの流行が荘園制に与えた影響を説明しなさい。また(イ)荘園制が動揺するなか再び領主権力を強化しようとして、それに反発する農民の反乱が各地で勃発したが、それらのうちフランスとイギリスの事例をあげなさい。
- 問 3 下線部(2)について、虐殺の背景となった当時のヨーロッパの都市でユダヤ人がおかれていた状況を、居住や職業に注目して説明しなさい。
- 問 4 下線部(3)について、大西洋を越えた「コロンブス交換」と呼ばれる商品作物の伝播のなかで、(ア)ヨーロッパ大陸からアメリカ大陸へ伝わった作物、また(イ)アメリカ大陸からヨーロッパ大陸へ伝播した作物のうち、それぞれ代表的なものをひとつ答えなさい。
- 問 5 下線部(4)について、(ア)スペインの征服者が王室から特権を得て支配地域に導入した「エンコミエンダ」と呼ばれる制度を説明しなさい。また(イ)聖職者としての立場から征服者によって引き起こされた先住民の惨状を告発した人物の名前を答えなさい。
- 問 6 下線部(5)について、都市の労働者階級がおかれていた居住環境を簡単に説明しなさい。
- 問 7 下線部(6)について、(ア)第一次世界大戦にアメリカが参戦することになった直接的な契機を簡単に説明しなさい。また(イ)この参戦によってアメリカ外交がどのように変わったのか、説明しなさい。